

「北海道の魅力について」 調査速報

レポート
Report

釧路公立大学地域経済研究センター

地域ブランド確立のためには、消費者がその地域に何を求めているのかをとらえ、ニーズに合った地域づくり、商品づくりが必要です。また、消費者がその地域に対して、どのような評価を持っているかを知り、消費機会の増大や訪問のきっかけにしていくことも重要です。

本誌編集協力先の釧路公立大学地域経済研究センターでは、昨年末に、観光産業、地場産業の展開に当たって、そのかぎとなる地域ブランド戦略を構築していくために必要なマーケティングデータを得るために、北海道滞在経験のある道外居住者が、北海道の主要観光地の魅力をどの程度評価しているのかという、魅力度評価の調査を実施しました。ここではその調査結果の速報をお伝えします。

※本記事は、平成16年度釧路公立大学地域経済研究センター自主研究(釧路信用組合寄附事業)「北海道における地域イメージ・魅力評価に関する調査研究」による調査結果です。

【調査対象者の属性】

- 調査対象者の条件／観光旅行やビジネスで3回以上の北海道訪問経験があるか、これまで北海道に1ヶ月以上の滞在経験がある、15歳以上の道外居住者
- サンプル数／300
- 性別構成比／男性46.7%、女性53.3%
- 年代別構成比／10代7.7%、20代19.0%、30代23.7%、40代20.7%、50代19.0%、60代8.3%、70代以上1.7%
- 居住地別構成比／東北3.7%、関東57.0%、中部13.7%、近畿19.0%、中国・四国3.0%、九州・沖縄3.7%

【調査の対象とした地域】

札幌市、函館市、小樽市、旭川市、大沼公園(七飯町)、洞爺湖(虻田町・壯瞥町)、登別市、層雲峽温泉(上川町)、知床(斜里町)、網走市、阿寒湖温泉(阿寒町)、釧路市、富良野市、ニセコ(ニセコ町・俱知安町)、摩周湖・屈斜路湖(弟子屈町)、帶広市、美瑛町、十勝川温泉(音更町)、稚内市、大雪山(東川町)

表1 総合魅力ベスト10

順位	地域名	合計
1	函館市	2453
2	小樽市	2234
3	札幌市	2052
4	富良野市	1217
5	知床(斜里町)	858
6	摩周湖・屈斜路湖(弟子屈町)	757
7	阿寒湖温泉(阿寒町)	613
8	ニセコ(ニセコ町・俱知安町)	528
9	洞爺湖(虻田町・壯瞥町)	492
10	層雲峽温泉(上川町)	491

※ =線は平均得点境界ライン

表2 自然や風景の魅力ベスト10

順位	地域名	合計	総合順位
1	摩周湖・屈斜路湖(弟子屈町)	441	6
2	富良野市	383	4
3	知床(斜里町)	382	5
4	函館市	356	1
5	阿寒湖温泉(阿寒町)	339	7
6	洞爺湖(虻田町・壯瞥町)	330	9
7	小樽市	326	2
8	層雲峽温泉(上川町)	299	10
9	大雪山(東川町)	272	17
10	ニセコ(ニセコ町・俱知安町)	249	8

※ =線は平均得点境界ライン

表3 食の魅力ベスト10

順位	地域名	合計	総合順位
1	函館市	436	1
2	小樽市	424	2
3	札幌市	415	3
4	旭川市	159	13
5	釧路市	124	12
6	知床(斜里町)	123	5
7	稚内市	85	16
8	富良野市	58	4
9	網走市	48	19
10	帶広市	48	18

※ =線は平均得点境界ライン

七つの魅力を5段階で評価

今回の調査対象者は、観光旅行やビジネスで3回以上の北海道訪問経験があるか、これまで北海道に1カ月以上の滞在経験がある、15歳以上の道外居住者300人。調査は、インターネットサーチ手法を用いて、2004年12月に実施しました。

調査対象とした道内の観光地は、「03年度の北海道観光客入込数から道外客入込数と宿泊延数で共に上位になっている市町村を選定。市町村名よりも大沼公園や層雲峠温泉、知床など、観光名所として知られている地名については、市町村名ではなく、そちらを表記し、()内に市町村名を表記、同様に洞爺湖(虻田町・壮瞥町)、ニセコ(ニセコ町・俱知安町)は観光名所として知られているため、一つの地域としてくくり、20地域を対象としています。

評価を試みた項目は、「自然や風景」、「食」、「街並み」、「(観光における)宿泊」、「買物・土産品」、「訪問意向」「居住意向」の7項目で、それぞれ5段階で評価をしてもらいました。

函館・小樽・札幌の3大観光地の評価高く

まず、各項目の5段階評価を良い順から2、1、0、-1、-2として得点化。項目ごとの合計を算出し、7項目の得点を足し上げて、地域別の総合魅力をランキングしたベスト10が表1です。

「函館市」「小樽市」「札幌市」の3都市がベスト3で、第4位の「富良野市」を大きく引き離した合計点となっています。近年、都市観光への取り組みが活発になっているようですが、都市観光の魅力を高めていくことの重要性を感じさせます。一方、第4位以降を見ると、テレビ番組などで地名度の高い「富良野市」、世界自然遺産登録への期待がかかる「知床(斜里町)」「摩周湖・屈斜路湖(弟子屈町)」などが続き、これらは表2を見ても分かるとおり、総合魅力のベスト3に対して、「自然や風景」などが評価

されています。

評価項目別ランキング

次に、項目別のベスト10を見ていくと、総合魅力で第1位～第4位となっている「函館市」「小樽市」「札幌市」「富良野市」はいずれの項目でも上位になっており、さまざまな魅力が複合して、高い評価が得られていることを感じさせます。

順に項目を見ていくと、「自然や風景」では、「摩周湖・屈斜路湖(弟子屈町)」「富良野市」「知床(斜里町)」のほか、「函館市」や「小樽市」も第4位、第7位と、比較的上位にあり、都市でありながら、自然環境などが評価されていることが分かります。

「食」(表3)の魅力度では、「函館市」「小樽市」「札幌市」「旭川市」「釧路市」が第5位までを占め、多様な食が味わえる都市の魅力が評価されているようです。一方で、食のイメージが高いと想定される十勝地方の「帯広市」は第10位、「十勝川温泉(音更町)」は圏外、「ニセコ」もベスト10には入っておらず、産地側の評価は残念な結果になっています。また、「阿寒湖温泉(阿寒町)」「層雲峠温泉(上川町)」「登別市」「洞爺湖(虻田町・壯瞥町)」など、温泉地の「食」もベスト10圏外で、今後の課題といえそうです。

「街並み」(表4)の魅力も第4位までが総合魅力と同様の結果で、第5位以降の合計点は平均点以下になっています。「街並み」は、歴史や文化がじみ出で魅力が高まると考えられ、「街並み」の魅力創出は、北海道全般にいえる課題といえるのかもしれません。

「(観光における)宿泊」(表5)の魅力でも「函館市」「小樽市」「札幌市」の評価は高いものの、「層雲峠温泉(上川町)」「阿寒湖温泉(阿寒町)」「洞爺湖(虻田町・壯瞥町)」「登別市」など、温泉地の評価も高くなっています。

さらに、「買物・土産品」(表6)と「訪問意向」(表7)でも上位4位は総合魅力と変わらず、これらの地域は今後も観光消費の伸びが期待できると考えられます。

表4 街並みの魅力ベスト10

順位	地域名	合計	総合順位
1	函館市	446	1
2	小樽市	425	2
3	札幌市	364	3
4	富良野市	150	4
5	美瑛町	65	11
6	十勝川温泉(音更町)	65	15
7	旭川市	53	13
8	摩周湖・屈斜路湖(弟子屈町)	46	6
9	洞爺湖(虻田町・壯瞥町)	45	9
10	ニセコ(ニセコ町・俱知安町)	40	8

※ =線は平均得点境界ライン

表5 宿泊の魅力ベスト10

順位	地域名	合計	総合順位
1	函館市	349	1
2	小樽市	290	2
3	札幌市	273	3
4	層雲峠温泉(上川町)	234	10
5	阿寒湖温泉(阿寒町)	216	7
6	富良野市	207	4
7	洞爺湖(虻田町・壯瞥町)	193	9
8	登別市	192	14
9	知床(斜里町)	182	5
10	摩周湖・屈斜路湖(弟子屈町)	174	6

表6 買物・土産品の魅力ベスト10

順位	地域名	合計	総合順位
1	函館市	407	1
2	小樽市	380	2
3	札幌市	360	3
4	富良野市	197	4
5	摩周湖・屈斜路湖(弟子屈町)	108	6
6	知床(斜里町)	106	5
7	旭川市	94	13
8	釧路市	89	12
9	阿寒湖温泉(阿寒町)	87	7
10	ニセコ(ニセコ町・俱知安町)	72	8

※ =線は平均得点境界ライン

表7 訪問意向ベスト10

順位	地域名	合計	総合順位
1	函館市	465	1
2	小樽市	450	2
3	札幌市	421	3
4	富良野市	359	4
5	知床(斜里町)	321	5
6	摩周湖・屈斜路湖(弟子屈町)	317	6
7	阿寒湖温泉(阿寒町)	261	7
8	層雲峽温泉(上川町)	257	10
9	ニセコ(ニセコ町・俱知安町)	243	8
10	洞爺湖(虻田町・壯瞥町)	237	9

※ =線は平均得点境界ライン

表8 居住意向ベスト10

順位	地域名	合計	総合順位
1	札幌市	59	3
2	函館市	-6	1
3	小樽市	-61	2
4	富良野市	-137	4
5	美瑛町	-228	11
6	帶広市	-242	18
7	旭川市	-246	13
8	ニセコ(ニセコ町・俱知安町)	-247	8
9	釧路市	-250	12
10	十勝川温泉(音更町)	-276	15

※ =線は平均得点境界ライン

また、「居住意向」(表8)では、道都・「札幌市」の人気が最も高いほか、既に移住者が見られている「富良野市」「美瑛市」「帯広市」などが上位になっています。

各項目の評価得点の平均点は、高い順に「訪問意向」258.4点、「自然や風景」252.6点、「(観光における)宿泊」150.1点、「買物・土産品」113.1点、「街並み」91.8点、「食」85.8点、「居住意向」-238.2点となっており、意外にも「食」の魅力は「街並み」を下回っています。日本的一大食料生産地であり、首都圏などでは物産展も好評な北海道ではありますが、観光面での「食」はまだまだ改善の余地があるといえるかもしれません。また、食材はよくても多様な調理法や地域の食文化の形成など、「食」に厚みを持たせていくことが、今後の課題といえるでしょう。

総合魅力のベスト10をはじめ、項目別の評価・順位は、「訪問経験」の有無でも違いが出てくることが考えられます。

訪問意向による各地域のポジショニング

最後に、対象地域への「訪問経験」の有無と「訪問意向」の評価をもとに、これらの地域の位置付けを検討していきます。

釧路公立大学地域経済研究センターとともに、地域観光の地域自立型産業の展開に向けて共同研究を行っている財団法人日本交通公社が'04年10月に発行した『旅行者動向 2004 国内・海外旅行者の意識と行動』のレポートの中で、「^{※1}来訪意向による観光地のポジショニング」を行った手法をそのまま用いて、今回の対象とした20地域のポジショニングを行いました。

その方法は、対象地域への訪問意向をもとに「^{※2}来訪意向指数」を算出し、さらに対象地の「訪問経験」のある人との人の訪問意向の得点の差を「^{※3}リピート指数」として算出し、この二つの指標によって、発展型、潜在型、成熟型、イメージ先行型と四つの属性で位置付けを行うというものです。

その結果が図1です。

発展型には、「札幌市」「美瑛町」「ニセコ(ニセコ町・

俱知安町)」「釧路市」などが挙げられ、総合魅力では上位であった「函館市」「小樽市」「富良野市」はイメージ先行型となっています。また、「帯広市」「登別市」「大沼公園(七飯町)」「旭川市」などは潜在型、「洞爺湖(虻田町・壯瞥町)」「十勝川温泉(音更町)」「網走市」は成熟型と位置付けられています。

本調査を実施した小磯修二地域経済研究センター長は、「都市部の評価が高いのは、訪問機会が多いことに加え、複合的な魅力要素が存在することが大きい。都市観光戦略は北海道観光のこれから的重要課題。また、食の魅力が予想以上に低い。食だけに頼らない、まちづくりの視点が観光政策にとっても大切」と指摘しています。今後、地域経済研究センターでは、さらに詳細な分析を進める予定です。

※1 来訪意向による観光地のポジショニング

財団法人日本交通公社が独自に開発した観光地ポジショニングの手法。算出方法は※2、※3を参照。

※2 来訪意向指数

各地域に対する訪問意向をもとに算出した評価得点。値が大きいほど“行きたいという意向が強い”地域。「訪問意向」の評価に対する回答者数をもとに「訪問意向」の強さを得点化。さらに回答者のその地域への「訪問経験」を加味して、各地域ごとに「来訪意向指数」を算出する。

$$\text{来訪意向得点} = \frac{2X1+X2}{2X1+X2+X3+2X4}$$

$$\text{来訪意向指数} = 0.7A + 0.3B$$

X1：訪問意向5段階評価で最も高い5の評価をした回答者数

X2：訪問意向5段階評価で4の評価をした回答者数

X3：訪問意向5段階評価で2の評価をした回答者数

X4：訪問意向5段階評価で最も低い1の評価をした回答者数

A：「訪問経験」がある人の来訪意向得点

B：「訪問経験」がない人の来訪意向得点

※3 リピート指数

その地域への「訪問経験がある人の来訪意向得点」(A)と「訪問経験がない人の来訪意向得点」(B)の差。値が大きいほど、“イメージより実際の方が素晴らしい”地域となり、マイナスの値が大きいほど“実際にやってみると期待ほどではなかった”地域となる。

$$\text{リピート指数} = A - B$$

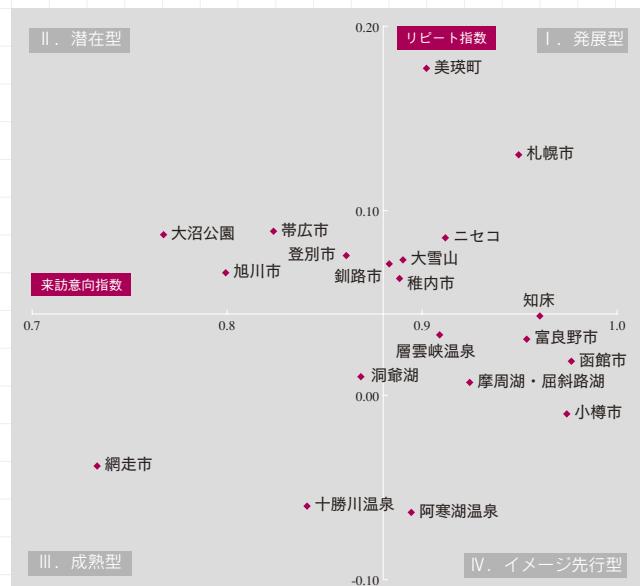


図1 対象地域のポジショニング

I 発展型：全ての旅行者から評価が高く、加えて訪問経験がある人からの評価が、ない人の評価を上回るタイプ。

II 潜在型：訪問経験がある人からの評価が高いにもかかわらず、総合的な評価は伸び悩みが見られるタイプ。

III 成熟型：全般に訪問意向があまり高くななく、さらに訪問経験のある人からの意向が低いタイプ。

IV イメージ先行型：総じて評価は高いものの、訪問経験がある人からの評価がない人と比べて低く、実際の魅力以上に好イメージが持たれているタイプ。